

共同体におけるコンフリクトと創発的連帯：
ロサンゼルス市のイラン系商店経営者のネットワークに関する研究
椿原敦子(人間科学研究科 人類学)

(1)問題の所在

1979年のイラン革命を前後して、イランからは多くの人々が留学生、亡命者、難民、移民として国外に移住した。中でもアメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス市（以下LAと記す）とその近郊は、20万人をこえる人口を擁するイラン国外最大の集住地域である。巨視的にみればLAへのイランからの移住は顕著であるが、LAにおける集住地区の形成は緩やかである。また、イラン革命やイスラーム共和国政府への見解の違いから来るイラン人同士の不和や対立がしばしば起こっていること、民族-宗教的帰属に基いた経済活動を行うエスニック・エコノミーが成立していることなどから、先行研究ではイラン人というナショナルな帰属に基く組織集団の形成が進んでいるとはいえないと指摘されてきた[Light *et al.* 1993; Bozorgmehr 1998]。しかし、このような不和や対立、葛藤は、人々をより細分化され固定された小集団へと分断するものではなく、常に人間関係のネットワークを再編成するものであると考えられる。本調査では、LAのダウントウン地区を調査地として、イラン出身者が生存戦略としてどのようなネットワークを利用しているかを探る。

(2)調査概要

・調査期間：2007.10.12 - 2007.12.5

・調査地：LA・ダウントウン、西LA地区

* インフォーマントとして、婦人服販売を行う商店経営者3名の協力を得て、店の仕入れやビジネスパートナーについての聞き取り、客や近隣の商店との関係、家族やイラン時代からの友人・知人との関係の維持などについての情報を収集。取引先の卸売業者や近隣の商店からの聞き取り調査も行った

(3)ダウントウン開発の歴史 [Davis 2002]

・1900 - 1925年：ダウントウンの不動産開発

・1920年代：ウィルシャー通りの開発が進む

自動車社会とオフィスの拡散による脱中心化、ダウントウンの衰退

・1950-60年代の再中心化 *recentering* 計画（バンカーヒルの住宅開発を含む）

西部、ウィルシャー、郊外への機能の移転と分散でたびたび頓挫

1900 - 1930年代に建設されたダウントウンの建物はスキッドロウのたまり場に

・1976-1982年の急激な変化：79年にはダウントウンの土地の4分の1が海外の所有

カナダ系の不動産資本、日本の財テクなどによる

6年後(1985)には海外資本による所有率は75%

* イラン系の地主が増えるのも70年代後半から80年代にかけて（注：現在土地の所有者記録を分析中）。カナダ、日本の資本がバンカーヒルなどダウントウンのオフィス地域に大規模に投下されたのに比べて、イラン系は個人が現在のジュエリー地区やファッション地区の安価な古いビルを購入していった。現在は価格がおおよそ10倍以上に高騰

(4)調査成果

調査から以下のような知見が得られた：

(A)地主とテナント賃借者の乖離

・地主とテナント賃借人との関係は希薄。また、ダウタウン地区の再開発や活性化は地主組織主導で行われ、その結果生じたテナント料の値上がりから商店経営者は移転を余儀なくされることがある

(例：ファッション地区では1996年以降にイラン系を含む土地のオーナーが組織を結成して「清潔で安全で親しみやすい仕事、ショッピング、居住の場」として開発を進めた)

・ダウタウンで活動する商店経営者同士の情報交換の結果、1つのテナントが別の商店経営者へと引き継がれることが多い。業種は様々

(B) 商店経営者のネットワークの形成

・開始当初は立地、業種、仕入先の選定などに関して友人や知人などの既存の人間関係を利用することは稀である。ダウタウンに来たことで同国(イラン)出身者と知り合い、情報を交換することでよりよい立地や仕入れ先を見出していく傾向が明らかになった

・ダウタウンで商業活動を始めた人々は、イランで既に関係のあった人々 家族、同級生、かつての同業者 がダウタウンで商業活動を行っている場合にも、優先的に取引の相手として選ぶことは少ない。むしろ経済的な利害関係を避けて、情報交換を行う傾向

(C) ネットワークの流動性

・ダウタウンで衣料品販売に関わる韓国出身者が衣料品製造・販売に携わる同国人のための組織を持ち、製造・輸入から販売にいたるまでの流通を安定させ、組織的な利益の拡大を図っているのに対し、イラン出身者は制度化された組織をもたず、取引や情報交換は個人的な関係に基づいて行われる

・商店経営者同士の二者関係は、完全な助け合いや相互扶助関係と、敵対や競合のいずれでもなく、ある対象 客、警察、ホームレス、卸売人など と対峙することにより決まる

警察：歩道に乗り出して販売を行う違反行為の摘発を避けるため連絡を取り合う
卸売人：取引を開始しようとする卸売人についての評判を同業者から聞く。近隣の「仲間 rafiq」とは商品が重複しないように別の卸売人から仕入れを行う

客：自店で扱っていない商品を希望する客を同業者に紹介。商店の間で取り扱う商品の売買を行うこともある。その際、商品の難点を指摘して値下げを要求する、敵対的な交渉も見られる

(5) おわりに

以上のような結果は、今回の調査開始前にダウタウンの外にいるイラン人から聞かれた「強固な連帯によって利害を守るダウタウンのイラン人」という言説とは全く異なるものであった。このような言説と内実のずれがダウタウンの内と外のイラン人、双方の関係にどのような影響を及ぼすのかを考察していくのが今後の課題である

(参考文献)

Davis, Mike.

2002 *Dead Cities*. New York: New Press.

Light, Ivan., Sabagh, Georges., Bozorgmehr, Mehdi. and Der-Martirosian., Claudia.

1993 "Internal Ethnocity in the Ethnic Economy" *Ethnic and Racial Studies*, 16-4: 581-597.

Bozorgmehr, Mehdi.

1998 "From Iranian Studies to Studies of Iranians in the United States" *Iranian Studies*, 31:3-30.